

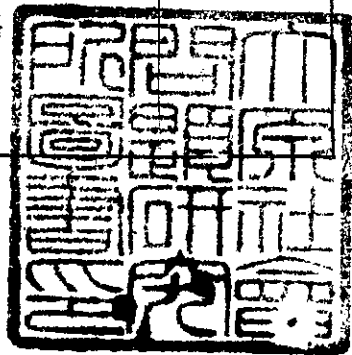
コミンテルン發表

日本帝國主義の陰謀

―田中義一首相の滿洲侵略の上奏覺書全譯―

一九四六年

イスクラ社版



一切の暴慢をさらけ出した

赤裸の日本帝國主義

——田中義一首相が天皇へ上奏した

滿洲侵略に関する覺書全文——

目次

- 一、まへがき……………(一)
- 二、一切の暴慢をさらけ出した赤裸の日本帝國主義
(「ロッキンヌスト・インタナショナル」)…(三)
- 三、總理田中義一大將が一九二七年七月に天皇へ上奏
した「滿洲における積極政策に関する覺書全文」…(七)

まへがき

この「覺書」が作られてからやく二十年のとし月が流れきつた。もしも讀者諸君が滿洲事變、支那事變をへて太平洋戦争に發展した過去十數年間に、日本帝國主義が現實の歴史においてたどつた道を目のまへにうかべつゝこの文書をひもとくならば、現實の悲劇の一步步がいかにか忠實にこの文書の筋書にしたがつて演出されて行つたかにおどろかざるをえないであらう。

悲劇はついにこの文書の筋書の範圍をのりこえて、主役はついに千仞の谷底におちていつた。そして軍國主義者共の仕組んだ芝居は一應幕をとぢた。しかし彼らの芝居はたんに芝居ではなかつた。それはいく千萬の人類に未曾有の不幸を招來した。いく百萬の民衆が血の犠牲を要求され、いく千萬が飢餓と窮乏のドン底にたゞき込まれたのである。犠牲を要求されたのは、たゞに日本民族だけではない、いなそれ以上に支那、朝鮮および南方諸民族がそれを負はされたのである。

今日、日本帝國主義の「世界制覇」の野望が撃碎され、總決算が行はれつゝある時、この文書が一人でも多くの人々によつて熟讀されることは、新しい平和日本の建設のためだけでなく、日本帝國主義の侵略によつて深傷をかうむつた諸民族にたいして日本民族がはたさねばならぬ義務を自覺するためにも望ましいことである。

この文書を熟讀した讀者は、この文書にもられた侵略計畫が、たんに少數の極端な軍國主義者たちの頭腦の産物ではなくて、明治維新によつて成立し、日清・日露の兩戦役を通じて生長し、その後における資

本主義的發展によつて世界的強國にまで成熟したブルジョア地主的天皇制權力が、國內における政治上・經濟上の諸矛盾を解決せんがため諸政策の集中的表現であることを知るであらう。すなはち、自己にたいする國內における民衆の反抗を他の民族の征服によつてそらさうとする專制的權力の常套手段にはかならぬのである。今日、敗戦によつて天皇制權力は、數十年にわたつて侵略してきた朝鮮、滿洲、臺灣、樺太等の一切の領土をうしなひ、軍隊をうしなひ、官僚と警察制度の弱體化を餘儀なくされた。しかし天皇制權力はブルジョア階級的支持——これは天皇制維持のローガンのもとに進歩黨、自由黨その他群小反動政黨によつて、反共產主義戰線として結集せられつゝある——を得て、再起の準備に狂奔してゐるのである。天皇制維持か天皇制廢止かの問題は、この「覺書」にもられた日本による「世界制覇」をいつの日にか國際紛議の間隙を利用して實現せんとする野望を今後も固持するか、それとも平和日本の建設のために斷乎として放棄するかを決定する目安となるのである。もしも日本民族が平和を愛好する民族として、このすまび切つた政治、經濟、文化を新しい基盤の上に打ちたてやうと欲するならば、いままな餘曠をたもつてゐる反動的要素をさつぱりと破棄してしまはなければならぬ。一切の權力を人民の手ににぎるとともに、その民主主義權力をもつて過去八十年にわたつて天皇制權力が植へつけた政治上、經濟上、文化上の一切の汚物を根こそぎにして、新しいものによつて置きかへてしまはなければならぬ。その際、天皇制權力の一本の細い根も日本の土地に殘してはならないことが判るであらう。

さらにこの「覺書」を讀んで、今次戰爭の客觀的原因にふかい關心をよび起した讀者は、再びかゝる悲劇をくりかへさないためにはどうしたらよいかを熟考せざるをえないであらう。人民による政治權力のないことが判るであらう。

日本共産黨は當時すでに開始されてゐた日本帝國主義の滿蒙積極政策が第二次帝國主義戰爭への口火となるであらうことを指摘し、戰爭の危機、とくに對支、對ソ干涉に對して斷乎としてたたくたのであつた。その際この文書は、日本帝國主義の反動的企圖を大衆の前に暴露するためにきはめて大きな意義をもつたのである。

戰爭が日本帝國主義の慘敗をもつて終結した今日、この「覺書」——これこそ封建的專制主義制度としての天皇制權力の本然の姿の肖像畫である——を再刻する所以は、進行しつゝある民主主義革命を表面的現象的改革にとどめることなく、あくまで徹底的ならしめんがためである。反動勢力が民主主義のマスクをもつて假裝すればするほどわれわれはその本然の姿を大衆の面前でひきはがされねばならない。この「覺書」は封建的專制的天皇制權力が根こそぎ抜き去られ、一掃され、明るく平和な民主主義政治機構が確立されない限り、過去の記録として書庫の塵埃に埋めてはならないと考へるものである。

一切の暴慢をさらけ出した

赤裸の日本帝國主義

田中義一首相の覺書に關して

われわれが以下に印刷するのは、一九二七年（昭和二年）七月二十

把握は、産業上における財閥と地主の獨占の打破による經濟民主化によつて裏附けられねばならない。戰爭は他の手段をもつてする政策の繼續である（「クラウゼツツ（戰爭論）」から、侵略戰爭を廢絶するためには、侵略的政策を廢絶せねばならぬし、侵略的政策を不可避的なものとする經濟的基礎が變革されてしまはねば、侵略戰爭を永久に廢絶することはできないのである。そのためにたんに憲法のなかに戰爭廢絶の條項をいれれば目的が達せられるかのごとく見かけやうとするのは、人民に對する天皇制陣營の見えすいた偽善策以外のなものでもない。眞實に、日本を侵略戰爭から切りはなすためには、政治、經濟、文化の全領域から舊支配勢力を一掃してしまはねばならぬ。いひかへれば、民主主義革命を徹底的に斷行する外みちは無いのである。戰爭犯罪者の追及もこの見地に立つてなされねばならない。たんに若干の軍人や官吏や學者だけに今次戰爭の責任があるのではない。そんな考へ方は、天皇が部下の將兵に敗戦の責任を問ふときのみならず、今次戰爭の強盜の本質、その反動的・人類殺戮的意義を問題とするのである。だからこの戰爭を必然的なものにした舊支配階級の全體の責任を問ふのである。新しい平和な日本を建設するために舊い制度と組織が根底からくつがへされねばならぬとともに、その制度のもとに人民を壓迫し、搾取してきた支配階級の一切の指導分子は人民の裁判に附され、その社會的生存權について判決されねばならない。かくしてのみ、眞に民主主義的日本が建設されることが可能となるし、世界における平和を愛好する民族としての日本の地位もまた確立されるのである。

最後にこの「覺書」の歴史について二、三のべておきたいと思ふ。この文書がいかなる経路をへて日本政府の手から持ち出されたかは明らかでない。五日、日本の總理大臣田中義一大將が日本の天皇に上奏した「覺書」全文である。ソヴェート同盟の防衛に立つ全世界のすべての労働者はこの文書を知つておかねばならぬ。植民地および半植民地の労働者農民はこの文書について知つておかねばならぬ。ことに支那、蒙古、滿洲および朝鮮の労働者農民はこの文書を熟知しておかねばならない。「大強國」の政府を指揮してゐる帝國主義者の極秘の、もつとも偽らざる文書を見らる機會はあまり無いものだが、かゝる文書の中でこそ、政府はその假面を投げ棄て、しほらしい率直さを以て、政府の活動の眞意を綱領および方法の一切を國家の元首のまへに披瀝するものである。

この文書は、現在滿洲の曠野で行はれてゐるすべてのことを理解するための鍵をわれわれにあたへ、かつソヴェート同盟に對する干渉がいかに切迫してゐるかを力強く確證するが故に興味あるものだ。それは新たな世界帝國主義戰爭をもつてわれわれを脅かす貪慾な日本帝國主義の限のない軍國主義的計畫を、暴露してゐるが故に興味あるものだ。自己の目的をみたすために帝國主義があやつるところの、血なまぐさい暴虐、強奪、抑壓、虚言、詐欺および狡猾といふあらゆる方法を、恥知らずと見えるまでムキムキに示してゐるが故に、興味あるものだ。またそれは帝國主義者が自己の攻撃を遂行するために最初手先とした者、この攻撃の前衛として重んじてゐる者（現在の場合は朝鮮人）をさへ強奪せんとし、いまやいかに準備してゐるかを示してゐる點で興味がある。最後に、それが（暴力、強奪および詐欺の一政策であるとは、それ自ら述べてゐるのだが）この政策のすべては「極東の平和と秩序とを維持すること」を目的としてゐると、その中で一心をこめて宣言してゐるところが面白いのだ。

この「覺書」にしたがふならば、日本帝國主義はとう「極東の平和

と秩序との間に「行動しようとするか」
ソヴェート同盟に關して、日本の「平和政策」は次のごとくである。

「もしもソヴェート・ロシアに屬する東支鐵道がこの地方に發展するならば、わが新大陸政策は打撃を被り、その結果、ちかき將來においてソヴェート・ロシアとの不可避的衝突が惹起されるであらう。かゝる場合、ふたたび我々は日露戦争において演じたと同じ役割を演ぜざるをえない。東支鐵道は南滿洲鐵道が我々の鐵道となつたと同様、我々のものとなるであらう。そして我々は大連を占領したと同様に吉林を占領するであらう。北滿富源の獲得のために蒙古の野でロシアと砲火を交へるのやむなきことは、わが國家發展の綱領の一部をなすものと思はれる。『もしも我々が將來を展望するならば、我々は北滿の野におけるロシアと交戦の不可避性を認めねばならぬ。』この線建設したならば、我々は大連、洮南、安東、チハルを通ずる三つの進路からのシベリア攻撃のための根據地となしうるであらう。『滿蒙は東洋のいまだまつたく未發達の國である。早晩、我々はソヴェート・ロシアと戦はねばならぬ。戦ひの場所は吉林となるであらう。』

これらの陳述において、日本帝國主義が、日に日にますます強化しつつある革命的ソヴェート共和國に對するきたるべき戦争を、心まで完全に購つてゐた專制君主に對するかつての戦争にくらべてゐるのは注目し得る。日本帝國主義者にとつては、ツアアの貪慾な目的のために外國の領土たる滿洲に血を流したツアア軍隊の武器の弱さはすでに試験済みだ。けれども彼らは、ソヴェート政府の政策を支持して、征服の目的では戦はないが、もしも日本の獸群がソヴェート同盟の領土に侵入するならば、一寸の土地も譲らず、斷乎として祖國を防衛す

の全部をいかにして征服するかを見るのをしばらくひかへて、日本帝國主義が一九二七年の當時、一九三一年を期して支那、滿洲、蒙古および朝鮮でいかに活動せんと企てゐたか、そして當時すでにこの計畫をいかに實行し始めたかについての事實を述べることにより、この點からいつ「覺書」は格別の興味がある。將來の見透しに關しては、「覺書」の筆者は、白晝夢をみてゐる帝國主義的ドンキホーテだといへるが、一たび滿蒙の略取、およびソヴェート戦争に關聯した當面の見透しの問題となると、彼は見ごとに考へ抜かれた、具體的な、軍事的、戰略的、經濟的、外交的攻撃計畫——日本帝國主義がもう實行し始めたところの——を提示する。

中國に關して、日本帝國主義は、ソヴェート同盟に對する態度の場合と同じく、革命の力の理解を完全に缺いてゐることを示し、また完全に無視さへしてゐる。この「覺書」は一九二七年、すなはち革命の波がすでに南支を席捲したときに起草されたにもかかわらず、それは中國の覺醒に關してたんに將來の危險としか言つてゐない。だがいまは帝國主義者の盲目的めぼれは我々の關心に値するものではない。興味あるのはこれらの帝國主義的『文明開化者』が覺醒しつつある民衆に對していかにふるまつてゐるかの問題だ。「覺書」は曰く——
「支那民衆がいづれ起すかも知れないといふことは、より、一層危險な原因である。もしも支那人が我々の唯一の顧客であることを想起するならば、我々は支那が統一され、その産業が繁榮し始める日に恐れなければならぬ。』今後我々は軍事的目的にしたがつて滿蒙の中心點を遷狀鐵道によつて包圍して、一方からは支那の軍事的、政治的、經濟的發展を阻害し、他方からはロシアの影響の滲透するのを阻止し得る様にならねばならぬ。これがわが大陸政策の鍵である。』(彼等が何といふ「文明開拓者」であるかを知れ。原註)

る赤軍の武力はいまだ經驗してゐない。日本人がツアアの軍隊と赤軍との間の基本的相違を理解してゐないことは、もちろん、たんに干渉を行はんとする彼らの決意を増大せしめるのみであらう。

アメリカ合衆國に關して、日本帝國主義はその「平和政策」を次のごとく「覺書」中に述べてゐる。

「もしも自衛のため、また他を守るために(？)『鐵血』政策を發行しないならば日本は東亞における困難を除去することはできない。だが我々がかゝる政策を遂行する場合、毒をもつて毒を制するといふ支那の政策によつて我々にけしかけられて來るアメリカと正面から衝突するであらう。將來支那に對する支配權を掌握せんと欲するかぎり、我々はアメリカを打破らねばならぬ。いひかへれば我々は日露戦争中においての如くアメリカに對して行動せねばならぬ。支那を征服するために我々はまづ滿蒙を征服せねばならぬ。』

ここで再び、日本帝國主義はツアア軍隊に對する日本の古い勝利によひながら、合衆國に對する將來の戦争をかつての日露戦争に比較してゐる。そしてこの幻想は日本と合衆國との間の將來の戦争の實現性を増加させるばかりだ。

したがつて日本帝國主義の戰略的計畫の要旨は次のごとくである。第一に、滿洲および蒙古の略取とソヴェート同盟に對する干渉。次に合衆國との交戦。だが日本帝國主義はここで止めはしない。日本帝國主義はまさしく、日本による全世界の征服を夢みかつ豫言する。

「支那の全富源を掌握した我々は、次いで、印度、南洋諸島、小アジア、中央アジア、いなヨーロッパへさへ前進するであらう。』
これらすべては表面上「自衛のため、また他を守るため」に、そして「極東の平和と秩序のために」なされるであらう。
日本帝國主義が將來アジアおよび「ヨーロッパをさへ」またそれら

日本帝國主義が滿洲への現在の軍事的侵略を、滿洲および蒙古の支那からの「獨立の擁護」の旗のもとに斷行してゐることはよく知られてゐる。しかるに大臣田中は、天皇にだけ見せるために書かれた偽らざる秘密文書の中で、滿蒙の「獨立」を擁護せんとする日本帝國主義の方法を以下のごとく説明したのだ。

「滿蒙は極東のベルギーである。世界大戦當時ベルギーは戰場と化した。ロシアおよびアメリカとわが國との戦争の際には、我々は戦争のあらゆる慘禍をしのんで滿蒙を守らねばならぬ。我々がこの地方の中立を破らざるをえないことは明瞭であるが故に、我々はあらゆる犠牲を払つて吉林——海寧鐵道、長春——大連鐵道を敷設せねばならない。』

けれども「覺書」は日本帝國主義が餘儀なく蒙古および滿洲の中立を破り、かつこれらに「戦争のあらゆる慘禍をなめさせる」であらうといふばかりではない。それは日本帝國主義が蒙古の支配を握つたならば、いかにして勤勞大衆を強奪するかを恥知らずの正直さで述べてゐる。

「内外蒙古に充分多數のわが國民が存在するにいたつたとき、我々は眞の價値の十分の一を支拂つて、そこで土地を買ひ上げ、そしてわが貯蓄を增加するために米を作り始めるであらう。土地の大半がわが手に歸したときには、すでに蒙古が日本人に屬するか蒙古人に屬するかについて争ひの餘地がなくなるであらう。わが軍事的勢力によつて我々は積極(一)政策を實現することができる。この計畫を實現するために「陸軍大臣機密費」から百萬圓を支出し、四百名の退職士官を内蒙古へ派遣する必要ある。支那の市民を裝ひ教師のふりをしたこれらの士官は、蒙古人の間にまぢり、蒙古諸侯の信頼をかちえねばならぬ。等。』

口の密度がきばめて小さいばかりでなく、これはどの森林資源や、かゝる夥しい礦物資源および農産物は、世界のどこにも存在しない。國民の輿論を喚起することによつてこの資源を開発せんがために、我々はとくに南滿洲鐵道會社を建設した。支那にとつても日本にとつても同様に利益がある計畫にしたがつて、我々は鐵道、海運、林業、製鐵業、農業および牧畜業に、四億四千萬圓以上を投資した。これは、いふまでもなく我々の最大の投資であり、かつ最も強大な組織である。この企業は名義上の官民共有であるが、事實上は完全に政府の掌中にある。南滿洲鐵道會社がわが帝國の政策を遂行する目的をもつて外交的、警察的、日常行政的機能を行ふことを委任されてゐるかぎり、それは朝鮮總督とまったく同一の権限をもつ特別組織である。すでにこの一事をもつてしても、滿蒙の中に有する我々の利益がいかに大なるかわかる。この國にたいして遂行されつゝある政策は、明治大帝の勅旨にもとづいて、大帝の御代から遂行されきたつたものであり、いまや新大陸帝國の發展をもたらさしつゝあるが、このことこそはわが國威のより一層の發揚と無數なるべき後代の人々の繁榮にとつて必要かくべからざることなのである。

不幸にも、ヨーロッパ大戦以後、對内對外政策はたえず變動をかゝらむつた。さらに東三省の政體も覺醒し、我々の例にならつて再興と産業的發展に向つて進んでゐる。我々は我々の勢力の發展を根本的に阻害するところの驚くべき成功がおさめられたことを認めざるをえない。その結果、我々は不利の状態におかれ、そして變轉極りなき滿蒙政府と我々との交渉は不成功に終つた。さらに、ワシントン會議に於て調印された九ヶ國條約は、我々が滿蒙ですべての自由を失ふほどにまでわが特殊利益および特權に制限を加へた。わが國の存在そのものが危険に曝されてゐるのである。もしもこの障害が除去されなければ、

の無効を宣言せんとした矢先、政友會内閣は突如倒壊し、わが政策は實行されなかつた。これはきはめて遺憾なことであつた。滿蒙の開発に關して列強と意見を交換した私は上海を経て歸途についた。その上海で、一人の支那人が私を殺さうとした。一人のアメリカ婦人が負傷し、しかも私は、わが先帝の垂れ給ふた運命の加護によつて救はれた。私が陛下を輔佐し奉つて極東に新時代を開き、新大陸帝國を發展せしめることは明らかに神の望まされることである。

政治的な點で、東三省は極東における不確定な地點である。自衛のために、また他を守るために、もしも「鐵血」政策を遂行しないならば、日本は東亞における困難を除去することはできない。だが我々がかゝる政策を遂行する場合、毒をもつて毒を制するといふ支那政策によつて我々にけしかけられてくるアメリカと正面から衝突するであらう。將來支那に對する支配權を掌握せんと欲するが故に、我々はアメリカを破らなければならぬ。いひかへれば我々は日露戰爭中においてのごとく、アメリカに對して行動せねばならぬ。支那を征服するためには、我々はまづ滿蒙を征服せねばならぬ。世界を獲得するためには、最初に支那を獲得せねばならぬ。もしも我々が支那を獲得し得るならば、すべて他のアジア諸國および南洋諸國は我々を恐れ、我々に降服するであらう。その時には世界は、東亞がわが國のものであることを理解し、わが國の權利をあへて犯さうとはしないであらう。明治大帝によつて我々に指示された計畫はかくのごときのものであり、そしてこの計畫の成否はわが國家的存在にとつて重大な意味をもつ。

九ヶ國條約はもつぱら商業的競争の精神を反映してゐるのである。イギリスおよびアメリカは、自己の巨大な富力をかけて、支那におけるわが國の勢力をうち破らうとした。軍備制限の提案は、わが國の軍勢力を減少させ、支那の巨大な地域を獲得する可能性を我々から奪ひ

ば、わが國家的存在は確保されえず、またわが國力は發展しないであらう。しかも資源は北滿に集中されてゐる。もしも我々がそこへ喰ひ込むことができぬかぎり、この國の富を獲得し得ぬことは明らかである。我々が日露戰爭によつて奪取した南滿洲の資源へ、九ヶ國條約によつて著しく制限されてゐるその結果として、わが國民が自由に滿洲に居を定めえずにをる間に、支那人はそこへ大衆的に移住してゐる。支那人の群集が年々東三省へ流れこみ、その数は幾百萬に上つてゐる。彼らは、滿蒙において獲得した我々の利益を著しく脅かしてをり、わが國の八十萬人にもおよぶ夥しい年々の過剰人口がすでにそこで身のおき所を探すこともできないほどである。この點からして、我々わが人口と食糧とを均衡させやうとする企てが不成功に終つたことを認めざるをえない。もしも我々が支那人の洪水を直ちに阻止すべき手段をとらないならば、その數は五ヶ年の間に六百萬を凌駕し、かくて我々は滿蒙において一層大なる難局に遭遇するであらう。

滿蒙における我々の行動の自由を制限した九ヶ國條約が調印されたとき、輿論が非常に動搖したことを銘記しなければならぬ。故大正天皇は會議を設置されたが、それにはこの新しい情勢と關すべき方法を審議するために、山縣及びその他の陸海軍の高官が参加してゐた。私は、この問題に對する有力政治家達の態度を知るために、歐米へ非公式に派遣された。彼らはみな、列強のこの條約がアメリカの指揮の下に締結されたのだと考へてゐた。この條約に署名した他の列強は、もしも我々が國際貿易および國際投資における我々の利益を擁護するのみにとどまるならば、滿蒙にわが國の勢力の増大することに反對するものではなかつた。イギリス、フランスおよびイタリアの爲政者が、このことを私へ私的に聲明したのである。不幸にも、我々が我々の政策を實現し、私の旅行中に會議した人々の同意の下に九ヶ國條約

去らうとする手段にすぎぬ。他方、支那の資源は彼らの専有するところとなるであらう。この條約は、イギリスおよびアメリカがそれによつて我々の計畫を粉砕しようとする計畫である。民政黨内閣は、九ヶ國條約を重視し、支那における我々の權利よりも我々の貿易を高調した。これこそ誤つた政策であり、國家的自殺の政策である。イギリスは、それに食糧およびその他の物資を供給する印度とオーストラリアをもつてみればこそ、貿易關係について喋々しうるのである。南アメリカおよびカナダが自己の必需品を充分にえてゐるが故に、アメリカもまたかく爲しうるのである。それらの國の努力はもつぱら、彼ら自身の致富のために支那貿易を發展させることに向けられてゐるのである。しかるに日本では、その人口に比し食糧品および原料がますます不足を告げてゐる。もしも我々が専ら貿易の發展のみに望をかけてゐるならば、我々は、その無数の資本主義的勢力をもつてイギリスおよびアメリカのために打破られるかも知れない。結局、我々は何物をもりうることはできない。支那民衆がいつ暴起するかも知れないといふことは、より一層危険な要因である。國內の紛争が數年にわたつてゐる今日においてすら、彼らは平和のうちに働き、我々の機微に努め、わが商品を買逐し、かくしてわが貿易の發展を阻止しうるのである。もしも支那人が我々の唯一の顧客であることを想起するならば、我々は支那が統一され、その産業が繁榮し始める日を恐れなければならぬ。アメリカ人とヨーロッパ人が我々と競争し、そして支那におけるわが貿易はくづがへされるであらう。九ヶ國條約を依然として有効ならしめ、滿洲に對しては貿易政策を施行せんとする民政黨の提案は自殺の政策以外の何物でもない。

わが國の現下の情勢と諸條件とを研究して我々が認めなければならぬことは、我々の最善の政策はけつきよく滿蒙のわが權益を確保す

る目的をもつて積極的政策をとることに歸するといふ點である。かゝる方策によつて我々はわが國の貿易を發展させることができる。これは、支那自身の産業的發展を阻止するだけでなく、支那へのヨーロッパ列強の侵入を許さないであらう。これが唯一の思慮ある、最善の政策である。

滿蒙において眞の權益を獲得するためには、我々は滿蒙を根據として利用し、わが貿易の發展の名のもとに、支那本土へ侵入せねばならぬ。すでに確保された權利で武装をとげ、我々は全土の富源をわが手に奪取するであらう。支那の全富源を掌握した我々は、ついで、印度、南洋諸島、小アジア、中央アジア、いなヨーロッパへさへ前進するであらう。だがもし大和民族が大陸アジアにおいて頭角をあらはさうと欲するならば、滿蒙に對する支配權の掌握が第一でなければならぬ。終局的勝利は、充分なる食糧を貯蔵する國のものである。産業の繁榮は、食料及び原料を確保した國においてのみ可能である。國力の完全なる發展は、廣大なる領土を有する國においてのみ可能である。もしも我々が滿洲および支那において我々の權益を擴大せんとする積極政策を遂行するならば、強大な國家にとつて必要なすべてのこれらの諸條件はもはや問題でなくなるであらう。それどころか、年々八十萬人におよぶわが國の過剰人口も食料をうるであらう。もしも我々が新政策を開始し、わが帝國の永遠の幸福を確保せんと欲するならば、我々は積極的滿蒙政策を遂行せねばならぬ。

二、滿蒙は支那の領土に非ず

歴史的見地からみれば、滿蒙は支那の領土でなく、また支那の所有地ではない。矢野博士は支那の歴史を根本的に研究して、滿蒙はいかなる時においても支那領土たりしことなしといふ結論に達した。かゝる

一、日本臣民は東部蒙古において旅行し、居住し、そこで商工業活動に従事する權利をもたねばならぬ。支那は、日本臣民に對しては支那の法律への服従の義務を除かねばならぬ。日本臣民は、不法な課税や不法な審問に附せられてはならぬ。

二、我々は奉天および吉林省において、十九の炭坑および鐵鑛を發掘する權利、また森林富源を開發する權利をもえなければならぬ。

三、我々は、南滿洲および東部蒙古において鐵道敷設における特權とこの目的のための公債發行の際の優先權をえなければならぬ。

四、日本の政治的、財政的および軍事的顧問の數を増加せねばならぬ。我々は、自己の顧問を派遣する特權を優先的にあたへられねばならぬ。

五、我々は、支那にある朝鮮人の保護のために警察署を設置する權利をえなければならぬ。

六、吉長鐵道の管理と發展の期限は九十九ヶ年に延長されねばならぬ。

七、我々は、特殊物資販賣の獨占權とヨーロッパおよびアメリカとの海上運輸を援助する優先權をえなければならぬ。

八、我々は、黑龍江省の鑛物を採掘する獨占權をえなければならぬ。

九、我々は、吉會鐵道および長春、大賚鐵道敷設の權利をえなければならぬ。

一〇、我々は、東支鐵道の買収に資金を必要とする場合には、日本政府は支那に借款を提供する特權をえなければならぬ。

一一、我々は、安東、營口において港とこれら諸港間の運輸の權利をえなければならぬ。

一二、我々は、東三省の中央銀行の共有者でなければならぬ。

一三、我々は、支那の對外的權利をえなければならぬ。

る事實は、帝國大學の權威ある代表者によつて全世界に報告された。矢野博士の研究は、支那の學者が一人としてそれを否定しうる者のないほど、綿密なものである。それにもかかはらず、對露宣戰布告においてわが政府が他のすべての諸國を超越した支那の主權を公然と認め、我々がワシントン會議で九ヶ國條約に署名した時にも同様のことを繰返したのは、非常な不幸事である。我々のこの二つの誤謬によつて外交關係において今日では、滿蒙に支那に主權が樹立され、それによつてわが權益が重要な脅威を蒙つてゐる。たとへ支那が五民族共和國を宣言したとはいへ、西藏、新疆、蒙古及び滿洲は過去に於て常に特殊地域であり、その他の諸侯が賦稅權を保持してゐた。かくの如く事實上では主權は諸侯の掌中にあつた。我々は出来る限り早く世界に眞の事情を闡明せねばならぬ。我々はまた、内外蒙古の改革の目的を以て此の國へ侵入すべきであつた。其處で諸侯が以前の行政的財務を依然として行ふ限り、主權は彼らの掌中にある。もしも我々が之らの領土へ侵入せんと欲するならば我々は彼らを支配者と見做し、權利及び特權に關して彼らと交渉せねばならぬ。我々がよい機會を捉へるならば、わが國家的努力は急速に發展するであらう。

三、滿洲における我々の積極政策

滿洲における諸權利についていへば、我々は二十一ヶ條の要求を基礎として斷乎として前進し、我々が獲得した權利を確保するためにつぎのことを達成せねばならぬ。

一、商租權に關する條約が一九三一年に滿期となつた時、我々はこの機會をとらへて我々の希望通りにその期限を延長しなければならぬ。さらに商工、農業上の目的のためのわが土地の租借權が承認されねばならぬ。

四、内外蒙古に對する積極政策

滿蒙はまだその土着諸侯の掌中にあるから、我々は將來彼らをしてこの國の支配者としてみとめ、彼らを支持せねばならぬ。かゝる考慮からして、關東長官福島(?)の娘は生命の危険を顧みず、トシエトの野蠻な蒙古人の間で生活し、そこで彼女はその地方の諸侯の顧問となつて、わが帝國政府に貢獻した。滿洲侯の姫スウが統治してゐる諸侯の妻となつて以来、政府と蒙古侯との間の關係がいちぢるしく緊密になつた。内外蒙古のすべての諸侯は、とくに我々が彼らを特別な贈物と庇護をもつて誘引して以来、我々に多大の尊敬を拂つてゐる。十九名の現役士官が現在トシエトにゐる。我々はすでにそこで、毛皮、不動産の買入れの獨占および鑛物資源採掘の獨占權を獲得した。我々はそこへ極秘にさらに多數の退役士官を送るであらう。彼らは、奉天政府の注意を惹かないやうに、支那人の服装をしてゐなければならぬ。彼らは種々様々の場所に配置されて、農業、牧畜業、毛皮取引に従事することが出来る。我々は他の諸侯に對してもトシエトの諸侯に對すると同様なる方法をとればよい。我々は、諸侯を統制するために、到るところにわが退役士官をおかねばならぬ。

内外蒙古に充分多數のわが國民が在任するにいたつた時、我々はその眞の價値の十分の一を支拂つて土地を買上げ、そしてわが貯蔵食糧を増加するために米を作り始めるであらう。米を作るのに適當な土地では、牧畜業を行ひ、また小麦を作ることが出来る。これは軍事的な意味からして非常に重要性をもつであらう。そのほかの場所では、鑛語業を經營し、ヨーロッパとアメリカにわが商品を出荷することが出来る。毛皮業と製革業の發展もまた有利なものである。かうして最後に内外蒙古は完全にわが掌中のものとなるであらう。こゝでは主

權の問題はまだハッキリしてならず、支那政府およびソヴェト政府が他の問題に忙殺されてゐるので、我々は平穩にわが影響を擴大することが出来る。土地の大半がわが手に歸した時にはすでに、蒙古が日本に屬するか、それとも蒙古人に屬するかについて、争ひの餘地がないであらう。わが軍事的努力によつて、我々は積極政策を實現することが出来る。この計畫を實現するために、「陸軍大臣機密費」から百萬圓を支出し、四百名の退役士官を内外蒙古へ派遣する必要がある。支那の市民を裝ひ教師のふりをしたこれらの士官は、蒙古人の間にまじり、蒙古諸侯の信頼をかちえ、彼等から、牧畜業、鑛山業に従事する權利をえ、かくして今後いく百年にわたるわが國益の基礎をきつかねばならぬ。

五、朝鮮人移民の援助と保護

朝鮮併合以來、朝鮮には紛擾がきほめて少なかつた。しかるにヨーロッパ大戦後、アメリカの大統領ウィルソンの民族自決に関する宣言は、被抑壓民族にとつて神の啓示のごとき役割を演じた。朝鮮人もその例にもれず、不穩の空氣が全國を風靡した。警察制度が不完全なために、滿洲においては自由がえられる結果、さらに土地が豊富であるために、東三省には百萬人以上の朝鮮人が移住してゐる。かゝる發展は我々にとつてまづたく有利であり、軍事的、經濟的見地からも、我々の影響をいぢるしく強めるものであつた。他面においてこのことは、朝鮮人の統治の問題にも新たな曙光をあたへる。彼らは、まだ手をつつけられてゐない土地を植民地化するためのわが國の前衛であり、また我々を支那民衆とむすびつける環となるであらう。一方、我々は米の耕作地を購入する目的で歸化した朝鮮人を利用することができ、他方、我々は南滿洲鐵道株式會社等々を通じて彼らに金融的援助

の約定にもとづいて、北滿に警察力を増加しなければならぬ。東拓會社、南滿洲鐵道會社も彼らに金融的援助をあたへねばならぬ。彼らが滿蒙の富源を開發し、彼らの掌中に商業上の權利を獨占しうるために、とくに有利な條件を朝鮮人に提供せねばならぬ。この地域への朝鮮人の流入は巨大な統治的、軍事的意義をもつものであつて、帝國政府は彼らに對する支持を惜しむことはできぬ。それは、わが帝國にとつて新しい將來をひらくものである。ワシントン會議が、石井ランシング協約のあらゆる利益を無効にした後においては、我々は數百萬の朝鮮人を滿洲へ送りこんで、舊地位を回復することができ、國際關係の分野においてこれに伴ふ困難といふものは、まづたくなひ。

六、鐵道とわが新大陸の發展

運輸——これは國防の基礎であり、勝利の保證、經濟的發展の出発點である。支那鐵道の總延長はやく七千二百哩ないし七千三百哩を成し、そのうち三千哩が滿蒙にある。滿蒙の地積とその豊富な自然的富源を念頭におくとき、我々はそのこになほ總延長五千六百哩以上の鐵道を必要とするといはねばならぬ。我々の鐵道が主として南滿洲鐵道に集中されてをり、しかも北部地方にある富源に達してゐないことは、遺憾のきはみである。南滿洲には、わが軍事的・經濟的計畫に對してきはめて好意的な態度をとつてゐる多數の支那人がある。もしも我々が我々の自然的富源を開發し、そしてわが國防を強化せんとするならば、我々は北滿洲に鐵道を敷設せねばならぬ。かくして我々は北滿洲に一層多くの日本人を送りうるであらう。そこから我々は南滿洲における我々の政治的・經濟的・發展を何倍も強化し、極東の平和と秩序との維持のためにわが國防を確立しうるのであらう。南滿洲鐵道は主と

をあたへることができ、かくして彼らを何よりもまづわが經濟的侵略に利用しうるのであらう。これによつて、食糧問題におけるわが現狀は緩和され、それと同時に植民地化の新しい可能性がひらける。支那の國籍をえた朝鮮人は、形式上で支那人たるにすぎないのであつて、彼らはおそらく、再びわが國へ復歸するであらう。彼らにば、カリフォルニアや南米へ歸化した日本人に比してはならない。彼らはたゞ一時支那人になつただけである。彼らの數が二百五十萬又はそれ以上に達した時、適當な時機を見て彼らを煽動し軍事的行動をおこさせることができるであらう。このとき我々はまたかも朝鮮人の運動を抑壓するかのごとく見せかけつゝ、彼らの軍事的行動を支持するのである。全部の朝鮮人が支那の國籍に屬してゐるのでない以上、他の國では、誰が紛亂を惹起したか、支那所屬の朝鮮人か、それとも日本の朝鮮人であるかを知ることはできない。我々はいつでも世界の輿論を迷はせらる。

かゝる目的のために朝鮮人を利用しうるのであるから、我々は支那人が朝鮮人を利用して我々に反抗せしめることを防止するやうな方策を講ぜねばならぬ。ところが滿洲は支那の法律のもとにあると同じくまた日本の法律のもとにある。もしも支那人が朝鮮人をば我々に對する闘争に利用するならば、我々は對支戰爭の口實をうる事が出来るであらう。かゝる際にもつとも危険なものは、ソヴェット・ロシアである。もしも支那人が朝鮮人を動かすために「赤化」を利用するならば、わが國民の考へ方は變化して、大きな危険が我々を脅かすにいたるであらう。かゝる點にかんがみ、現内閣はかゝる萬一の場合に備へるためにあらゆる豫防策を講じてゐる。もしも我々がわが新大陸帝國の發展のために朝鮮人を利用しようとするならば、我々は彼らのために彼らの保護の方策を綿密に作りあげなければならぬ。我々は、朝鮮人に支持をあたへ、彼らを助けて急速に前進させうるために、三井

して經濟目的のために作られた。滿洲には軍隊の動員と輸送とに必要な環狀線が作られてゐない。今後我々は軍事的目的にしたがひ、滿蒙の中心點を環狀鐵道によつて包圍し、かくして一方からは支那の軍事的、政治的、經濟的發展を破壊し、他方からはロシアの影響の滲透を阻止しうるやうにせねばならぬ。これが、わが大體政策の鍵である。

滿蒙には二つの基本的鐵道がある。それは東支鐵道と南滿洲鐵道である。支那人によつて敷設された鐵道についていへば、いまやそれらは吉林省政府の金融的支持によつて疑もなく巨大な意義をうるにいたつた。奉天省と黒龍江省を結合する鐵道により、支那鐵道はその發展とともにわが南滿洲鐵道をいぢるしく凌駕し、激烈な競争をはじめてゐる。我々にとつて幸なことには、奉天政府の財政状態は非常に混亂をきほめてをり、支那政府は我々の助力なしにかゝる状態を改善することはできない。我々はこれを利用せねばならぬ。我々は積極的に乗出して、鐵道敷設における我々の目的を達せねばならぬ。もしも我々が株式相場をあやつるならば、奉天政府の紙幣は完全に崩落し、政府は破産するであらう。もちろん奉天政府は滿蒙の開發等を考へることもできなくなるであらう。だが我々は東支鐵道を考慮に入れなければならぬ。東支鐵道は南滿洲鐵道と「丁」形をなしてゐる。かゝる形態は軍事的要求にそはしない。もしも南滿洲鐵道を基本線とみるならば、支那人は南から北に向ふ自己の鐵道を敷設せねばならぬ。かうするのが彼らにとつて有利なのである。かゝる場合わが國の利益は、けつして支那の利益と衝突しないであらう。ロシアがその影響を喪失して、滿洲へ前進しえない今日において、支那人はわが國の鐵道敷設を支持せねばならない。しかるに驚くべきことには、奉天政府は最近、もつぱら軍事的目的のために打虎山から通遼にいたる線と吉林から海龍へいたる線の二つの鐵道を敷設した。この二つの鐵道は、滿洲にお

けるわが軍事的計畫および滿鐵の利益に強大な損失をあたへる。それ故我々はその敷設に對して強硬に抗議した。

これらの鐵道が敷設されたのは、わが代表者、さらに滿鐵の代表者が奉天政府の力を過小評價したからである。我々の干渉は時すでにおそく、工事はもう終了してゐた。アメリカ人は資本を投じ、イギリス資本家のたすけをえて胡蘆島港を開かんと努力した。これを機會に奉天政府はわが國に打撃をあたへるためこの鐵道へアメリカおよびイギリスの資本を投下させたのである。いまや我々に残されてゐることは、この二つの鐵道について支那と交渉するために適當な機會をとらへることである。

最近、奉天政府が通遼と扶餘をへて打虎山からハルビンにいたる鐵道の敷設を企てゐるといふ噂が、廣まつてゐる。南滿洲鐵道にも、東支鐵道にも觸れない北京、ハルビン間の直通線がつくられるといふのである。さらに海龍、吉林、ウーチャン。

(五常?)をへて奉天からハルビンへいたる他の線を作らうと企てゐることは、より一層驚くべきことである。もしもこの計畫が實現するならば、この二つの線は南滿洲鐵道を包圍し、南滿洲鐵道の活動を最小限に制限するであらう。これは滿洲におけるわが政治的、經濟的行動を麻痺せしめ、かくして九ヶ國條約の目的ははたされ、わが權力は萎縮するであらう。この二つの線の完成は、南滿洲鐵道をまつたく不用のものとなすであらう。南滿洲鐵道會社は眞の危機に直面するであらう。だが現在の財政状態のもとにおいて、支那は外國借款の助力なくしてはこの二つの鐵道の運賃は、南滿洲鐵道より高いであらう。かゝる事柄は、我々を幾分安心させるには運ひない。だがもしもこの二つの鐵道が敷設されて、支那政府が南滿洲鐵道と競争するために安い運賃率を定めたとするならば、我々ばかりでなく、東支鐵道も損失

を受けるであらう。日本はもちろん、ロシアもまたその東支鐵道が主として、ハルビンおよびハルビンから發送される貨物の運輸を基礎としてゐる以上、なほさら、支那がかゝる妨害の方策をとることを許しはしないであらう。

南滿洲鐵道は我々の目的にそつてゐない。我々の現下の必要と將來における我々の活動を考慮する時、我々は北滿及び南滿の鐵道を自己の統制下におかねばならぬ。南滿洲においては支那人の數がいちぢるしく増加し、それがわが政治的、經濟的利益に損害をもたらしてゐる。我々がかゝる條件のもとにおいて、將來における日本の繁榮を確保するために北滿に攻撃的進出を企てるの餘儀なきにいたつてゐる。だがもしソヴェート・ロシアに屬する東支鐵道がこの地方に發展するならば、わが新大陸政策は打撃を蒙り、その結果近き將來においてソヴェート・ロシアとの不可避的な衝突が惹起されるであらう。かゝる場合、再び我々は、日露戦争において演じたと同じ役割を演ぜざるをえない。東支鐵道は、南滿洲鐵道が我々の鐵道となつたと同様に、我々のものとなるであらう。そして當時我々が大連を占領したと同じやりに、我々は吉林を占領するであらう。北滿洲の富源を獲得するために蒙古の野でロシアと砲火を交へるのやむなきことは、わが國家的發展の綱領の一部であると思はれる。この確信が爆破されないかぎり、わが船は急速に前進しなさいであらう。我々は支那から重要な軍事的鐵道を敷設する權利を要求せねばならぬ。これ等の鐵道が完成する時、我々は北滿を我が軍隊によつて氾濫せしめるであらう。ソヴェート・ロシアは干渉を試みねばならぬであらう。そしてこれが公然の衝突のための我々の口實となるであらう。

我々は次の鐵道の敷設を主張しなければならぬ。

(一) 通遼——熱河(承德)鐵道。この鐵道は四百四十七哩の延長をも

つ管であり、その敷設に五千萬圓を要する。これが完成した時、蒙古への發展のための我々の闘争はきはめて有利となるであらう。これはもつとも重要な鐵道線路である。陸軍大臣の秘密な調査によれば、内蒙古には米の耕作に適する廣大な地面がある。この地方が充分に開發された場合にはそこに二千萬以上の我々日本人が住むことができる。そこで我々は、わが食料用およびヨーロッパおよびアメリカへの輸出に役立つところの家畜を二百萬頭まで飼ふことができる。最後に羊毛がある。蒙古の羊は、日本のものよりも三倍も多くの羊毛を供給する。南滿洲鐵道會社は、かゝる事實を確證するいく多の實驗を行った。蒙古の羊毛は、オーストラリアのものよりもつと良質である。安價で良質の羊毛を多量に産する蒙古は莫大な富の自然的源泉である。もしも我々が鐵道の發展を通じてこの産業を助長するならば、その生産額は少くとも十倍に増加するであらう。我々はイギリスやアメリカが我々と競争を始めるのを妨げるために、かゝる事實を世界から隠蔽してゐる。だからして我々はまづ第一に運輸を統制し、ついで羊毛業の開發に着手せねばならぬ。もしも他の國がこのことを逸早く看取したならば、我々の事業はあるひは萬事休するかも知れぬ。鐵道を自己の支配下におくことによつて、我々は我々の必要をみたすだけでなく、ヨーロッパおよびアメリカへの輸出のためにも羊毛業を發展せしめらるであらうし、我々の蒙古占有的希望をも實現しらるであらう。この鐵道は蒙古における我々の政策によつて死活の問題である。それなくして日本は、蒙古の開發において何らの役割を演ずることができない。

(二) 秦綸——洮南鐵道。この線は延長百三十六哩、その敷設には一千萬圓を要する。もしも我々が日本の將來を望み見るならば、我々は北滿の野におけるロシアとの競争の不可避性をみとめざるをえない。

軍事上の見地からすると、この鐵道は我々にロシアの背後への脅威を可能ならしめるばかりでなく、北滿へ軍隊を増兵する可能性をロシアから奪ひ去らせるものである。經濟の見地からすれば、この鐵道は我々をして洮兒河(註)松花江の一支流)沿岸の富源を開發せしめ、また南滿洲鐵道の地位を強固にする。我々と友誼的關係をむすんでゐる附近の地域の諸侯はこの鐵道を利用しえ、かくしてわが國の影響を強め、我々に彼らの領土を開放するであらう。我々の一層の進出に必要な條件たる蒙古の諸侯との協働の可能性、土地、炭坑および牧畜地の獲得、土着の住民との通商の發展は、一にこの鐵道にかゝつてゐる。通遼——熱河鐵道と、秦綸——洮南鐵道とは蒙古へ通じてゐる。産業が完全に發展した時、外蒙古にも我々の影響を擴大することができらるであらう。だがこの線はそれが支那人がこの新しい地方へ移民することを容易にし、それによつてわが政策を阻害しらるるといふ點で危險である。南滿洲鐵道を想起せよ、これははたして支那の利益に役立たないであらうか? とはいへ重要なことは、土地および鐵道沿線の富源が蒙古の諸侯に屬してゐることである。もしも我々がこれらの土地と滿洲を占有するならば、我々は支那移民を恐れる必要はない。我々は諸侯をして支那の移民を禁止する法律を公布させることさへできる。もしも支那人がそこで生活し難くなるならば、彼等はもちろんこの場所を立ち去るに違ひない。この地方の支那人の移住を阻止するには、また他の方法もある。我々の活動が充分でさへあれば、蒙古の領内には支那人の足跡も消えてしまふであらう。

(三) 長春——洮南間。この鐵道は長春から發して扶餘および大賚をも含んでゐるが、長春——洮南間は延長百三十一哩、敷設にやく千百萬圓を要するであらう。この線は巨大な經濟的意義をもつてゐる。何となれば滿蒙の富源は北滿洲に集中されてゐるからである。我々は北滿

へ接近し、かつ東支鐵道に打撃をあたへることによつて南滿洲鐵道を援助しうる。この鐵道は、その肥沃と豊富な農産物によつて秀でてゐる。松花江の沿岸を通つてゐる大賚附近には、發電に利用し得るユネリヤン瀧(?)がある。この線が農工業の繁榮の中心點となるであらうことは疑ない。この線を敷設することによつて、我々は、大賚を洮南安廣およびチ、ハルを通ずる三つの進路からのシベリア攻撃のための根據地となしうるのであらう。北滿の富源はわが手に歸するであらう。この線はまた我々をして、黒龍江省へ進ませるであらう。長春—洮南間の鐵道とともにこの鐵道は、我々の蒙古への侵入の目的によつて戰略的意義をもつ迂回線をなすであらう。ここは人口がきはめて稀薄であり、しかも天産豐富である。五十年の間肥料を施す必要がない。この線を掌握することによつて、我々は北滿洲および蒙古の富源を占有することができるであらう。少くともまだ三千萬の人間がここに住むことができる。教化鐵道が完成して、會寧をへて朝鮮にいたる線と結びつけられた時には、すべての産物は一直線に大阪および東京へ到着しうるのである。戰爭の場合には、我々は日本海を横切り一直線に北滿洲および蒙古へわが軍隊を送り支那軍隊の北滿進出を阻止しうるのであらう。アメリカの船もロシアの船も、朝鮮の海峡を通行することはできない。吉林—會寧間、および長春—大賚間の鐵道が完成するやいなや、我々は食料と肥料との點で他から獨立するであらう。戰爭の場合にはいかなる國も我々を妨害することはできないであらう。それ故、滿蒙に關する交渉が開始された時にも、支那は我々の要求に服させるをえないであらう。もしも我々が明治大帝の計畫の第三の言葉にしたがつて、滿蒙の獨立の政治的存在を終焉させやうと欲するならば、この二つの鐵道を完成しなければならぬ。長春—大賚鐵道は南滿洲鐵道の價値を著しく高めるのであらうが、それ自身一の戰略的鐵道

勢力を補へねばならぬ。かゝる點からして、吉林—會寧鐵道敷設の必要が生じてゐるのである。

事情に應じて、我々はこの鐵道が清津もしくは羅津、またさらにチュニツチ(朱乙?)で終るべきかを決定する。國防の見地からすれば、羅津が理想的な港であり、鐵道の理想的な終點である。これは世界で最良の港ともなりうる。一方ではこの港はウラヂオストツクを衰微させ、他方では滿蒙の富源の中心點となるであらう。大連はまだわが領土でなく、また今のところ滿洲はわが帝國の一部でない限り、この都市を發展させることは困難である。かゝる點からして、我々は戰爭の時には困難な状態に陥る。敵は對馬および千島海峡を封鎖することができ、そして我々は滿蒙との連絡を絶ち切られるであらう。この富源を失つては、滿蒙は敗北するであらう。ましてイギリスおよびアメリカが共同して、すべての地域で我々の勢力を制限するために活動してゐるのではなほさらのことである。我々はいつかは、自衛の目的をもつて、またさらに、支那に警告を與へるために、アメリカと戰爭を交へざるをえないであらう。フィリッピン諸島に根據地をもつてゐるところのアメリカのアジア艦隊は、對馬および千島からさう遠くはなからう。もしもそれがフィリッピンからその潜水艦を出动せしめたならば、我々は滿蒙の食料および原料資源から完全に遮断されるであらう。しかるに、もし吉林—會寧鐵道が完成するならば、我々は全滿洲および朝鮮を通ずる大迂回線と北滿洲への一小線とを持つことにならう。かくて我々はあらゆる方向へ前進する自由をえ、また兵士とすべての必要な物資とをあらゆる方向へ送ることができ、また兵士も我々がこの線の助けによつてすべての必要な物資を敦賀および新潟港へ送るならば、敵の潜水艦は日本及び朝鮮の海峡へ侵入することはできないであらう。その場合には誰も我々を妨害することは

である。これはこの地域への侵入せんと努力する我々にとつて極度に重要なものである。

(四) 吉林—會寧線。吉林—教化線は完成されてゐるが、さらに教化—會寧間線が敷設されねばならぬ。會寧—老頭溝間の二呎六吋の陳軌鐵道は、新大陸の經濟的發展にとつて不適當である。鐵道のこの個所を廣軌鐵道にするのに八百萬圓、老頭溝教化間の鐵道敷設に一千萬圓を費さねばならぬ。總計約二千萬圓に上る。これがなされた時には、わが大政の成功はもはや確實である。これまでヨーロッパへ行く人々は、大連かもしくはウラヂオストツクを經由して行かねばならなかつた。いまや彼らは直接清津からシベリア鐵道で行くことができ。我々がこの巨大な鐵道網を掌握した時にはもはや我々は明治大帝の第三の言葉に由來してゐる滿蒙における我々の企圖を陰蔽する必要はないであらう。その時こそ大和民族は、世界の占領に前進する事が出来るであらう。明治大帝の遺訓によれば、我々の第一歩は臺灣の獲得であり、第二歩は朝鮮の併合であつた。今や第三歩の、すなはち滿蒙および支那の獲得に踏み出さねばならぬ。このことがなされた時、南洋諸島をもふくめたすべての他のアジアが我々の支配下におかれるであらう。過去においてこの任務がいまだ果されなかつたことは、陛下に仕へる者の罪であつた。

吉林、奉天、黒龍江省の一部に住む住民は、歴史において清民族と呼ばれてゐる。清民族は、海岸またはアムールおよびトムール河沿岸附近に散在してゐた。歴史の各時代によつて彼らは、種々の名で呼ばれた、それは混合種族であつた。滿洲朝の祖先はこゝに起つた。彼らはまづ先に吉林を占領しそれから三百年にわたつて支那に自己の政權を築いた。もしも我々がわが大陸政策を實現しようとするならば我々はいかなる歴史的事實を學んで、何よりもまづ、この地域に強固な

できない。そして日本海はわが國防の中心點となるであらう。食料と原料との運輸を確保したならば、我々はすでにアメリカ艦隊、支那軍、もしくはロシア軍を恐れる必要はなく、朝鮮の運動をも抑壓することができる。繰返して言ふ—もしも我々が新しい大陸政策を遂行しようとするならば、我々はこの線を敷設しなければならぬ、と。滿蒙は、東洋のまだまづたく未發達の國である。早晩我々はこゝでソヴェート・ロシアと戦はねばならぬ。戦ひの場所は吉林となるであらう。支那に對する明治大帝の計畫のうちに指示された第三歩を踏み出すために、我々は次のやうに行動せねばならない。

(一) 我々は福岡、廣島の師團を動員して朝鮮をへてこれを南滿洲に送りねばならぬ。我々はかくして、支那兵の北方進出を阻止するであらう。

(二) 我々は、名古屋およびフアンセイ(?)にある師團を海路清津へ送り、そこから吉林、會寧鐵道によつて北滿洲へ送らねばならぬ。

(三) 關東の軍隊を新潟および清津もしくは羅津をへて送らねばならぬ。さらにそこから吉林—海倫鐵道によつて北滿洲へ。

(四) 北海道および仙臺の師團は青森および函館から海路をへてウラヂオストツクへ送られ、そこからシベリア鐵道によつてハルビンへ。

(五) この軍隊は奉天に止り、蒙古を占領し、そしてロシアの南下を阻止する。

(五) すべてのこれらの師團は、二軍團に編制される。南部においてそれらは、山海關を占領し、支那軍の北方への進軍を山海關によつてせぐ。北方においてそれらはロシアの南進をチ、ハルで守るであらう。かくすれば滿蒙の全資源がわが手に歸するであらう。かりに戰爭が十年間つゞいたにせよ、我々は少しも食料および軍需品の不足に苦しまないであらう。

吉林—會寧鐵道がわが國の港からどれだけの距離にあるかを見やう。もしも清津を起點と考へるならば、そこからウラヂオオストクまで百三十哩、敦賀まで四百七十五哩、門司まで五百哩、長崎まで六百五十哩、釜山まで五百哩である。

いま出發點として敦賀港をとらう。この場合、我々は、工業中心地として大阪を考慮せねばならぬ。

(一) 羅津をへて長春から大阪まで陸路四百六哩と海路四百七十五哩。所要時間は五十一時間。

(二) 大連および神戶を經由するならば、長春は大阪から陸路五百三十五哩離れてをり、もしも海路を行くならば八百七十哩である。所要時間は九十二時間。

もしも大連の代りに、敦賀が結合點になるならば、我々は四十一時間を節約しうる。一時間に陸路三十哩と海路十二哩と計算して、最良の船と高速度の汽車を利用すれば、我々は旅程を二分の一に短縮しうる。

滿蒙は極東のベルギーである。世界大戰當時ベルギーは、戰場と化した。ロシアおよびアメリカとわが國との競争の時には、我々は競争のあらゆる慘禍を忍んで滿蒙を戰場とせねばならぬ。我々がこの地方の中立を破らざるをえないことは明瞭であるが故に、我々はあらゆる犠牲を拂つて吉林—會寧鐵道、長春—大連鐵道を敷設せねばならぬ。けだしこれはわが軍事的準備にとつて必要だからである。かくすれば戦時にはわが軍勢力を急速に増加することができ、平時は幾千の人々をこれらの地方へ輸送して、そこで米を作らせることができる。それ故にこの線は、經濟的發展と武力占領との機會を我々にあたへる。吉林—會寧鐵道の敷設は、乾燥季節に遂行され、かつ完了されねばならぬ。この線は、花崗岩の山を貫通してゐる。トンネルを作る

前に我々は鐵道によつて速かに十億圓儲けることができるであらう。我々はアメリカ材の日本への輸入を阻止しうるであらう。かて、加へて、我々は木材價格引下げにより、家具、製紙業等々において一ヶ年にさらに二千萬圓を儲けることができるであらう。

そこにはさらに炭坑もあり、これが六億噸の石炭を埋藏してゐる。

この石炭の質は撫順炭よりも良質であり、その採掘は容易であり、さらにそれから石油を作ることができる。我々はこれを自ら使用したり、もしくは支那へ賣つたりすることができる。吉林—會寧鐵道はその他多數の利益を我々にもたらすが、しかもすべてそれらは我々が何らの困難なしに獲得しうるもののみである。石炭は撫順炭を補充するものとなるであらう。我々はこの二つの石炭産地を掌握することによつて、支那の全工業を支配しうるであらう。我々は石炭を日本へ送る場合、一噸あたり五圓儲けることができるであらう。もしも我々がこの石炭からさらにすべての化學的副産物をもりうるならば、この儲けは十六圓に上るであらう。順あたり平均十五圓の利得とすれば、總計二億圓の利益があがる。これ等すべてが吉林—會寧鐵道のみによつてえられるのである。さらにムタン河畔に金産地がある。吉林—會寧鐵道が開通するやいなや、南滿洲鐵道會社はチエプイゴイの金産地および吉林工業、木材富源の開發權を實現することができるのであらう。敦化附近でおびただしい量の農産物——大麥、小麥等——をうるることができる。そこにはまた二十の酒造工場、三十の製油工場、等々がある。鐵道を敷設しきへすればすべてこれらを獲得しうるのである。この沿線で一ヶ年に四百萬圓の商業を行ふことができる。農産物だけの運輸がすべての經費をつぐなふばかりでなく、一ヶ年に二十萬圓の純益をあたへるであらう。さらに木材、石炭および副産物の運輸からの利益を計算するならば、我々は一ヶ年に八百萬圓の儲けをうるであらう。

ためには、もつとも近代的な機械を用ひなければならぬ。砂煉瓦、粘土はこれらの地方のいたるところから充分に採掘され、鐵道敷設にあつて、その不足を感ずることはけつてないであらう。我々はたゞレール、貨車、機關車を現地まで運搬せねばならぬのみである。これによつて建設費は少くとも三〇%安くなり、そして建設を普通よりもほどんど二分の一の速度で完了しうるであらう。

わが南滿洲鐵道會社首腦部で精密に調査したところによれば、この鐵道にそつた地方には總計二億噸の木材がある。もしも我々が國內需要のために毎年百萬噸の木材を伐採するならば、我々は二百年間それをつづけうるであらう。さうした場合には、年額八千萬乃至一億圓に上る木材を必要としないであらう。我々はそれを公然と語ることにはできない。何故ならば、もしも我々が滿洲からそんなに多くの木材をえてゐることを支那やロシアが知れば、彼らは我々と競争して、自らこの線の敷設に着手しようとするからである。しかのみならず、アメリカは奉天政府から全森林の利用權を買取るかも知れない。さうした場合にはアメリカはわが製紙業を打破ることができるであらう。

吉林は乾隆帝の時代にも「林の海」と呼ばれてゐた。その時以來さらに新しい森林が植林された。これらの森林の富源はほとんど想像のつかないほどである。この木材を吉林から長春及び大連を経て輸送するために、三百八十五哩の距離が餘計かゝる。一立方呎ごとに三十四錢の運賃がかゝる。かゝる高い運賃のために我々はアメリカと競争しえない。しかしもしも吉林—會寧鐵道が敷設されるならば、この距離を七十哩だけ短縮することができるであらう。その場合木材は海路をへて大阪へ送られ、一立方呎あたり運賃はわづか十三錢にしかならぬ。さうなればもちろん我々はアメリカ材を驅逐しうるであらう。一噸の木材が五圓の利益をあたへるものと見て、二億噸の木材がある場

このほか南滿洲鐵道の地位が強化され、多數の日本人が北滿へ移住するであらう。なによりもまづ重要なことは、日本と北滿洲の富源との距離を縮めることである。三時間後には清津から會寧に到着することができ、會寧から三峰(？)へ到るに三時間、さらに圖門江の流れと龍井村(？)との間に三時間を要する。六十時間以内で我々は滿洲のあらゆる富の源へ到達しうる。この鐵道によつてのみ我々は北滿の巨大な富をわが手に収めることができる。

(五) 敦化—海林鐵道。その延長百七十三哩、その敷設費二千四百萬圓、この沿線には密林がある。この線は吉林—會寧鐵道を強化し、また森林および北滿洲の鑛山開發のために必要である。この線は、ウラジオオストクを犧牲として會寧を繁榮の中心點にするために必要である。海林の南、そして敦化の北にあるチンボ(鏡泊湖)湖は發電に利用されうるであらう。この電力により、我々は滿蒙の全農業および工業に對する統制權を掌握することができるであらう。南滿洲鐵道會社の調査によれば、この湖水は少くとも八十萬馬力の電力を供給しうる。かゝる巨大な電力によれば我々は容易に滿蒙の工業を征服することができる。かゝる巨大な動力中心點が近かつたならば、自然の富源は急激に發展するであらう。我々は運輸を容易にするために、この鐵道を急いで敷設せねばならぬ。支那およびロシアの所有たる興凱湖も、發電に利用しうる。この二國が我々の計畫を破壊しえないやうに、我々は本年東京で開かれる國際電力會議において、同一の地方に二つの發電所を設置するをえずといふ決議を提出せねばならぬ。王子製紙工場はすでに、寧古塔および海林の附近で森林の資源に對する廣汎な權利を獲得した。この工場は、チンボ湖にただちに發電所を設け、そしてできるだけ急速に敦化海林鐵道が敷設されることを希望してゐる。なぜなら、さうした場合には、蒙古に繁茂してゐる原料を急

吉林—會寧鐵道がわが國の港からどれだけの距離にあるかを見やう。もしも清津を起點と考へるならば、そこからウラヂオオストクまで百三十哩、敦賀まで四百七十五哩、門司まで五百哩、長崎まで六百五十哩、釜山まで五百哩である。

いま出發點として敦賀港をとらう。この場合、我々は、工業中心地として大阪を考慮せねばならぬ。

(一) 羅津をへて長春から大阪まで陸路四百六哩と海路四百七十五哩。所要時間は五十一時間。

(二) 大連および神戶を經由するならば、長春は大阪から陸路五百三十五哩離れてをり、もしも海路を行くならば八百七十哩である。所要時間は九十二時間。

もしも大連の代りに、敦賀が結合點になるならば、我々は四十一時間を節約しうる。一時間に陸路三十哩と海路十二哩と計算して、最良の船と高速度の汽車を利用すれば、我々は旅程を二分の一に短縮しうる。

滿蒙は極東のベルギーである。世界大戰當時ベルギーは、戰場と化した。ロシアおよびアメリカとわが國との競争の時には、我々は競争のあらゆる慘禍を忍んで滿蒙を戰場とせねばならぬ。我々がこの地方の中立を破らざるをえないことは明瞭であるが故に、我々はあらゆる犠牲を拂つて吉林—會寧鐵道、長春—大青鐵道を敷設せねばならぬ。けだしこれはわが軍事的準備にとつて必要だからである。かくすれば戦時にはわが軍勢力を急速に増加することができ、平時は幾千の人々をこれらの地方へ輸送して、そこで米を作らせることができる。それ故にこの線は、經濟的發展と武力占領との機會を我々にあたへる。吉林—會寧鐵道の敷設は、乾燥季節に遂行され、かつ完了されねばならぬ。この線は、花崗岩の山を貫通してゐる。トンネルを作る

前に我々は鐵道によつて速かに十億圓儲けることができるであらう。我々はアメリカ材の日本への輸入を阻止しうるであらう。かへて加へて、我々は木材價格引下げにより、家具、製紙業等々において一ヶ年にさらに二千萬圓を儲けることができるであらう。

そこにはさらに炭坑もあり、これが六億噸の石炭を埋藏してゐる。

この石炭の質は撫順炭よりも良質であり、その採掘は容易であり、さらにそれから石油を作ることができる。我々はこれを自ら使用したり、もしくは支那へ賣つたりすることができる。吉林—會寧鐵道はその他多數の利益を我々にもたらすが、しかもすべてそれらは我々が何らの困難なしに獲得しうるもののみである。石炭は撫順炭を補充するものとなるであらう。我々はこの二つの石炭産地を掌握することによつて、支那の全工業を支配しうるであらう。我々は石炭を日本へ送る場合、一噸あたり五圓儲けることができるであらう。もしも我々がこの石炭からさらにすべての化學的副産物をもりうるならば、この儲けは十六圓に上るであらう。順あたり平均十五圓の利得とすれば、總計二億圓の利益があがる。これ等すべてが吉林—會寧鐵道のみによつてえられるのである。さらにムタン河畔に金産地がある。吉林—會寧鐵道が開通するやいなや、南滿洲鐵道會社はチエフイゴイの金産地および吉林工業、木材富源の開發權を實現することができるのであらう。敦化附近でおびただし量の農産物——大麥、小麥等——をりうる。そこにはまた二十の酒造工場、三十の製油工場、等々がある。鐵道を敷設しきへすればすべてこれらを獲得しうるのである。この沿線で一ヶ年に四百萬圓の商業を行ふことができる。農産物だけの運輸がすべての經費をつぐなふばかりでなく、一ヶ年に二十萬圓の純益をあたへるであらう。さらに木材、石炭および副産物の運輸からの利益を計算するならば、我々は一ヶ年に八百萬圓の儲けをりうるであらう。

ためには、もつとも近代的な機械を用ひなければならぬ。砂煉瓦、粘土はこれらの地方のいたるところから充分に採掘され、鐵道敷設にあつて、その不足を感ずることはけつてないであらう。我々はたゞレール、貨車、機關車を現地まで運搬せねばならぬのみである。これによつて建設費は少くとも三〇%安くなり、そして建設を普通よりもほどんど二分の一の速度で完了しうるであらう。

わが南滿洲鐵道會社首腦部で精密に調査したところによれば、この鐵道にそつた地方には總計二億噸の木材がある。もしも我々が國內需要のために毎年百萬噸の木材を伐採するならば、我々は二百年間それをつづけうるであらう。さうした場合には、年額八千萬乃至一億圓に上る木材を必要としないであらう。我々はそれを公然と語ることにはできない。何故ならば、もしも我々が滿洲からそんなに多くの木材をえ得ることを支那やロシアが知れば、彼らは我々と競争して、自らこの線の敷設に着手しようとするからである。しかのみならず、アメリカは奉天政府から全森林の利用權を買取るかも知れない。さうした場合にはアメリカはわが製紙業を打破ることができるであらう。

吉林は乾隆帝の時代にも「林の海」と呼ばれてゐた。その時以來さらに新しい森林が植林された。これらの森林の富源はほとんど想像のつかないほどである。この木材を吉林から長春及び大連を経て輸送するために、三百八十五哩の距離が餘計かゝる。一立方呎ごとに三十四錢の運賃がかゝる。かゝる高い運賃のために我々はアメリカと競争しえない。しかしもしも吉林—會寧鐵道が敷設されるならば、この距離を七十哩だけ短縮することができるであらう。その場合木材は海路をへて大阪へ送られ、一立方呎あたり運賃はわづか十三錢にしかならぬ。そうなればもちろん我々はアメリカ材を驅逐しうるであらう。一噸の木材が五圓の利益をあたへるものと見て、二億噸の木材がある場

このほか南滿洲鐵道の地位が強化され、多數の日本人が北滿へ移住するであらう。なによりもまづ重要なことは、日本と北滿洲の富源との距離を縮めることである。三時間後には清津から會寧に到着することができ、會寧から三峰(？)へ到るに三時間、さらに圖門江の流れと龍井村(？)との間に三時間を要する。六十時間以内で我々は滿洲のあらゆる富の源へ到達しうる。この鐵道によつてのみ我々は北滿の巨大な富をわが手に収めることができる。

(五) 敦化—海林鐵道。その延長百七十三哩、その敷設費二千四百萬圓、この沿線には密林がある。この線は吉林—會寧鐵道を強化し、また森林および北滿洲の鑛山開發のために必要である。この線は、ウラジオオストクを犧牲として會寧を繁榮の中心點にするために必要である。海林の南、そして敦化の北にあるチンボ(鏡泊湖)湖は發電に利用されうるであらう。この電力により、我々は滿蒙の全農業および工業に對する統制權を掌握することができるであらう。南滿洲鐵道會社の調査によれば、この湖水は少くとも八十萬馬力の電力を供給しうる。かゝる巨大な電力によれば我々は容易に滿蒙の工業を征服することができる。かゝる巨大な動力中心點が近かつたならば、自然の富源は急激に發展するであらう。我々は運輸を容易にするために、この鐵道を急いで敷設せねばならぬ。支那およびロシアの所有たる興凱湖も、發電に利用しうる。この二國が我々の計畫を破壊しえないやうに、我々は本年東京で開かれる國際電力會議において、同一の地方に二つの發電所を設置するをえずといふ決議を提出せねばならぬ。王子製紙工場はすでに、寧古塔および海林の附近で森林の資源に對する廣汎な權利を獲得した。この工場は、チンボ湖にただちに發電所を設け、そしてできるだけ急速に敦化海林鐵道が敷設されることを希望してゐる。なぜなら、さうした場合には、蒙古に繁茂してゐる原料を急

速に運ぶことができるからである。

もしも吉林—五常(？)鐵道會社および奉天政府が、葫蘆島と天津とを港とした五常—吉林—奉天鐵道を敷設しようとするならば、それは彼らが北滿洲の富源を掌握しようとするためである。教化、海林鐵道を敷設することによつて、我々は吉林—會寧鐵道を強化するばかりでなく、支那の計畫を破壊して、滿洲の富源を清津港へむけるのである。運賃は支那鐵道の三分の二、シベリア鐵道の三分の二となるであらう。これらの鐵道は、わが鐵道と競争しえず勝利は我々に歸するであらう。

滿洲の總取引額は一ヶ年に七—八百萬圓にのぼり、これらすべての貿易は我々の掌中にある。羊毛、棉花、大豆、鐵のわが貿易は世界貿易の二十分の一をなし、たえず増加してゐるとはいへ(大連)の最も繁華な街はいまだ支那人の掌中にある。だがそれだけではない。植物性油の製造は滿洲の工業の基本的な部門である。この工業における我々の比率はたゞの六〇にすぎない。營口にある三十八の製油工場のうち日本のもは一つもない。安東にある二十の工場のうち日本の工場は唯一つ、大連にある八十二—八十三のうち日本のはたつた七つである。この失はれた地位をとり返すために、我々はなによりもまづ、運輸を發展させねばならぬ。完成品および原料に對する獨占權を掌握する等により、我々はこれら工業の支配的地位を占めることができるであらう。さらに我々はこの工業に従事してゐる日本人を援助して、彼らに廣汎な信用をあたへ、かくして支那人を驅逐せねばならぬ。大阪には滿蒙にあるわが工場主と取引してゐる多數の支那人がゐる。彼らは支那に住んでゐる日本人と激しい競争を行つてゐる。我々の生活水準が高く、そしてより高い利得を必要とするがために、我々の立場は困難である。だが他面において支那人にも弱點がある。彼らは品の落ちる商

品に對しても、日本人より少くとも一〇%多く支拂はねばならない。彼らは商品一噸ごとに二圓七十錢多く支拂はねばならないが、それにもかかはらず彼らは滿洲にある我が商人と競争して成功を収めてゐる。これは、わが國民の無能力を明瞭に物語つてゐる。このことを考へる時、我々は反省せざるをえない。支那人は自分自身の力に頼つて、政府からの援助をうけない。滿洲に住んでゐる日本人は自國政府の保護を利用し、長期の信用をうけて、僅かな利子を支拂つてゐる。それ故我々は支那との貿易の爲の協同組合的な輸出會社を作らねばならぬ。それは、汽船および南滿洲鐵道の特權を利用し關東廳はそれに低利の信用をあたへねばならぬ。かくして我々は支那の商人との競争に成功を収め、滿洲における我々の生産を發展させ、世界のあらゆる國々に我々の商品を輸出することができるであらう。

滿蒙に對して金融的商業的支配權を獲得するための第一歩は、これらの國の生産物の販賣に對する獨占權を獲得することにある。我々は滿蒙の生産物の販賣に對して獨占權をもたねばならぬ。何故ならばかくしてのみ、我々はわが大連政策を遂行し、アメリカ資本の侵入を阻止し支那商人の勢力を破壊しうるからである。

滿蒙の生産物は三つの港——大連、營口、安東を通過しなければならぬが、現在もつとも重要なものは矢張り大連である。この港には年總噸數千五百六十五噸、七千二百の船舶が入入する。これは全滿蒙貿易の七〇%に當る。この港からあらゆる方向へ向つて十五の航路が出てゐる。この線の多くは沿岸交通のためである。我々は滿蒙のすべての運輸系統を掌握してゐる。我々は滿洲特産物を販賣する獨占權をうることもできよう。かくして我々はわが海上運輸を發展させ營口および安東港をおしのけることができるであらう。中支および南支で消費されるおびただしい大豆の賣買は我々の支配下におかれるであら

た生産物を支那およびその他の國へ輸出せねばならぬ。我々はいくしてわが失業者に仕事をあたへ、支那人の滿蒙への流入を阻止し、支那人が我々の新しい工業的方法を模倣する機會を奪ふのである。本溪湖および鞍山で作られる鐵、ならびに撫順炭もまた、最後の加工のため日本へ送られねばならぬ。

すべてこれ等は、わが海上運輸發展の必要を物語つてゐる。大連汽船會社を擴大しなければならぬ。わが政府は南滿洲鐵道會社の資金をもつて低利でその會社に貸付を行はねばならぬ。來年には我々は、わが海上運輸のために五萬噸の船舶を増加させるであらう。極東の貿易において支配的地位を占めるためには、これだけで充分である。一方に我々は、陸路の運輸を確保してゐる南滿洲鐵道をもつてをり、他方には運輸をまづめてゐるところのおびただしい量の滿蒙生産物に對する支配權を掌握してゐる。もしも我々が大連を中心港として我々の海上運輸を發展させるならば、經濟的鐵則が我々の成功を保證するのである。

七、金本位制の必要

滿蒙は我々の活動分野のうちにあるにもかかはらず、その貨幣流通の基礎は依然として銀である。その結果、しばしばわが金本位制との矛盾が生じ、わが利益に不利な影響をあたへてゐる。この地方に住んでゐる日本人が富裕になつてゐないとするならば、それはもつぱらこの地方に銀本位制が存在するためである。支那人は執拗に銀本位制をとつてゐるので、我々は確乎たる經濟的基礎の上にわが植民地化計畫を打ち立てることができなかつた。我々はその結果左のごとき損失をかうむつてゐる。

一、我々は金本位制による貨幣を滿洲へ持ちこむ。そこで我々はそ

れをば支那の銀ドルに兩替しなければならぬ。ドルの相場は往々にして二〇%も、變動し、そして滿洲に住むわが國民に多大の打撃をあたへる。投機が普通の仕事となり、資本の投資が一種のかけごととなつてゐる。もしも二十萬圓が何かの事業に投せられたとしても、この資本が銀貨の相場の下落によつて十六萬ないし十五萬支那ドルに下落するやも計り難い。その結果、多數の破産が起る。

二、支那の商人はもつぱら銀貨を用ひてゐるので、相場の變動によつて悩まされることはない。支那人は金と銀との爲替相場について明確な觀念を持つてゐないが、それでも彼らは常にすべての取引で儲けてゐるのである。それは彼らの天稟の才能によるが、とにかく儲けられるのはつねに我々である。我々は銀行の支持をうけてゐるにもかかはらず打撃をうけてゐる。不完全な貨幣制度の結果、中支および南支の住民はもつぱら支那人から大豆を買ふやうになつてゐる。我々はこの傾向に逆らふことはできぬ。それ故に我々は全支那を奪取せねばならぬ。

三、支那政府は、流通してゐるわが貨幣量の増加に應じて、紙幣の量を計算することが出来る。その結果、わが銀行は支那へ日本の影響を強めるといふ自己の任務をはたすことができない。

四、もしも金本位制が採用されるならば、我々は金準備によるわが紙幣を自由に發行することが出来るであらう。この紙幣によつて、我々は不動産および自然富源に對する權利を獲得し、支那の銀紙幣の信用を失墜させることが出来るであらう。支那人は我々と競争しえず、滿蒙の貨幣流通は完全に我々の統制下におかれるであらう。

五、東三省の官銀—運輸銀行、國境銀行、一般信用金融銀行は、三千八百萬ドルの銀紙幣を流通させてゐるが、決算表にあらはれたその資産は、建物および商品からなり、わずかに百三十五萬ドルと評價さ

れてよいであらう。アメリカおよびヨーロッパの資本を利用して我々は我々の計畫にしたがつて滿蒙を開闢することが出来る。我々はかくして國際的猜疑を和げ、より廣大な計畫のための道をひらき、列強をしてこの國內における我々の特殊地位といふ事實を承認させるであらう。我々は、投資せんとする列強のあらゆる企てを歓迎すべきである。だが我々は支那をして思ひ通りに列強と取引させてはならぬ。我々は、列強に滿蒙のわが政治上ならびに經濟上の特殊地位を承認せしめんと努力する以上、支那に對して干渉を加へ、支那とともに滿蒙の全責任を負はねばならぬ、我々は、かゝる政策を支那と他の諸國との外交關係にまで擴張するやうに努力せねばならぬ。

九、南滿洲鐵道の組織改造の必要

南滿洲鐵道會社は滿洲で、日韓併合前における朝鮮總督のごとき役割をはたしてゐる。もし我々がわが新大陸帝國を建設せんと欲するならば、我々は會社の全組織を變更し、我々が關はねばならぬ困難を排除せねばならぬ。會社の職能は多種多様である。内閣の更迭ごとに滿鐵首腦部の更迭が行はれ、逆にまたこの鐵道の業態は内閣に多大の影響をおよぼしてゐる。滿鐵が半官的組織であるといふことに注意せねばならない。それ故に列強はこの鐵道を商業的企業といふよりは、むしろ政治機關と見てゐる。滿蒙開發のため何らかの方策がとられるやいなや、列強は滿鐵の計畫を破損するために九ヶ國條約を引合に出す。これがわが帝國の利益をいぢぢしく阻害した。滿鐵は四頭政治—

總東長官、關東軍司令官、奉天總領事および滿鐵總裁—の統制下にある。會社が何ら、重大な方策をとる以前にこれら四人の首腦者が、大連で意見を交換せねばならぬ。彼らの會合が秘密裏で行はれるにもかかはらず、東三省政權は多くのことを察知する。彼らは、支那中央

れるにすぎぬ。支那の紙幣がその價值を失はざるをえないことは明瞭であり、しかもなほそれが流通してゐるのは、政府の援助によるものである。我々が支那の銀紙幣の信用を失墜させないかぎり、我々は滿蒙において支那の銀紙幣に代ふるに我々の金紙幣をもつてし、これら二つの國において金融および貨幣の獨占權をわが掌中におさめることはできない。この價值のない銀紙幣によつて東三省政府はあらゆる種類の商品を買入れ、かくして我々の既得權益を侵害してゐるのである。これ等の商品を販賣する場合、彼らは我々に金を要求する。かくして彼らはわが國の金融的利益とわが商業とを傷ける目的をもつてその金を貯蓄するのである。これ等すべての點にかんがみ、金本位制採用が緊急に必要である。

我々は滿洲の銀紙幣を騙して、政府からすべての購買力を奪はねばならぬ。しかるも我々はわが金紙幣を用ひ、かくして滿蒙において經濟的金融的活動を自己の手に掌握することが出来るであらう。我々は東三省の政權に、わが國を金融の領域において支配者たらしめよう。日本人を財政顧問として召聘させることが出来る。支那の紙幣がまつたぐに價值を失つた曉には、わが國の金紙幣がその地位に代るであらう。

八、他の列強の投資を誘引せねばならぬ

我々の傳統的政策は、第三國の對滿蒙投資を許さないと云ふ點にあつた。しかしながら九ヶ國條約がすべての國に對する機會均等の原則、すなはち滿蒙をわが國の勢力範圍外となす國際協定の原則を樹立して以來、この政策は時代錯誤となつた。列強はたえず我々を注視し、わが國のなす一舉一動が列強の疑惑をおこしてゐる。かゝる状態のもとでは、外國資本が電氣工業やアルカリ工業に投資される方がか

政府が我々の個々の方策に對して必要な對策を提示しえない様最善を盡してゐる。滿鐵の全決定はさらに外務大臣、鐵道大臣、陸軍大臣、大藏大臣の同意をえねばならぬ。もしこれら四大臣の中心一人がその提案を拒否するならば、滿鐵は何ごともなしえない。かゝる點にかんがみ、現總理大臣は、非力をもかへりみず、外務大臣の重責を負ふたのである。これによつて滿洲におけるわが全方策はより容易に秘密を保つことができ、わが計畫はきはめて迅速にかつ決定的に實現されつゝある。以上の如き状態であるから、南滿洲鐵道會社は根本的に再組織を必要としてゐる。滿鐵附屬の有利なすべての企業は、滿鐵監督下の獨立會社に變更されねばならぬ。その時にこそ我々は滿蒙占領のために決定的な前進をなしうる。他方において、株式の絶對多數をわが手中にのこしておくとの條件のもとに、支那人、ヨーロッパ人、アメリカ人に彼らの資金を滿鐵に投下するよう提議せねばならぬ。かくすれば鐵道の支配權は依然としてわが手中にあり、しかも我々はより大なる精力をもつてわが帝國の使命を果しうるであらう。我々は、南滿洲鐵道の發展に列強の参加を求めることによつて、全世界を欺さうであらう。かうしておいてのちに、我々は滿蒙へ前進し、九ヶ國條約の拘束から解放され、外國資本の助けによつて我々の活動を強化することが出来るであらう。

以下滿鐵に附屬する大企業を挙げよう。

(一) 鐵および鋼鐵

鐵および鋼鐵はわが國家的發展と密接に結びついてゐる。しかるにもかかはらず、鐵鑛石不足の結果、我々はこの問題を解決しえなかつた。従來、我々は、鐵鑛石を揚子江沿岸および馬來半島から輸入せねばならなかつた。しかるにわが參謀本部の秘密調査によれば、滿蒙は

無限の豊富な鐵礦を埋藏してゐる。最少限に見積つてもそこには百億噸の鐵礦石がある。最初、技術がさ程發達してゐなかつた時には、鞍山鐵礦所の業績は年々三百萬圓の缺損であつた。後にいたつて新方法が考案された時、この損失は減少し始めた。一九二六年にはそれは十五萬圓となり、その後一ヶ年にして製鐵所は八十萬圓の利益をあげた。もしマルチン爐が据えつけられるなら、年四百萬圓以上の利益をあげるであらう。木溪湖附近で探掘される鐵礦石の質は優良である。この鐵礦石は鞍山の鐵石とともに、鐵および鋼鐵の供給の點で我々を獨立させるであらう。

滿鐵における鐵礦石埋藏量は約十二億噸、石炭は二十五億噸である。この鐵礦石埋藏量を處理するためには、この石炭の埋藏量が充分である。鐵、石炭のかゝる巨額な埋藏量を掌握することによつて、我々は少くとも七十年間は完全に自給自足しうるであらう。鋼鐵一噸あたり利益百圓と計算して、三億五千萬噸の鐵礦石は三百五十億圓の利益をあげうるであらう。我々は、輸入鋼鐵に年々支拂ふ一億二千萬圓を節約しうるであらう。わが工業へ充分な鐵および鋼鐵を供給しえた時、我々は世界の指導的強國となるであらう。かくして強大となることによつて我々は東洋および西洋をも占領しうるであらう。この目的のために金屬工場は、滿鐵から分離させられねばならぬ。

(二) 石油

我々が不足を感じてゐるきは極めて重大なる他の物資は石油である。石油は一國の生存にとつて必要缺くべからざるものだ。さいはひにも撫順炭田には五十二億噸の油母頁岩が含まれてをり、それから六%の精油がえられる。アメリカ製の機械によつて、自動車および船舶用の精油が六%えられる。現在日本は年額七十萬噸、價格六千萬圓の石油

我々は年額一千萬圓以上を支拂つて十萬噸のソーダを輸入してゐる。ソーダ及びソーダ灰は共に軍事用、工業用に缺くことができない。ソーダは鹽および石炭からえられるが、鹽および石炭は滿鐵に無盡蔵に存在する。もし我々がこの仕事に従事するならば、我々は自國需要をみたし得るのみならず支那へも輸出し、支那におけるソーダ工場を支配者たりうるであらう。我々はこの部門で年額一千五百萬圓以上の利益をあげるであらう。これもまた滿鐵の統制から分離されねばならぬ。

(四) マグネシウム、アルミニウム

滿鐵の資料および東北帝大の本田博士の報告によると、滿洲にはアルミニウムとマグネシウムとが無盡蔵に存在する。マグネシウムは大石橋附近に、アルミニウムは博愛附近にある。それは世界最大の埋藏量を有するものである。噸あたり價格マグネシウムは二千圓、アルミニウムは千七百圓である。滿洲における兩礦物の埋藏の總價格は七億五千萬圓である。これらの礦物は飛行機、醫療機械、船舶等の製造にとつてとくに有用である。この礦物の巨大な埋藏量を有するのはアメリカ合衆國のみであつた。これ等の金屬の需要は日毎に高まりつゝあるが、しかもその供給は不斷に減少の状態である。その價格は騰貴してゐる。滿蒙のわが領域内にあるこの礦物の埋藏量は我々に對する神の賜物と言ふべきであらう。この礦物はわが工業および國防にとつても必要缺くべからざるものである。この工業もまた滿鐵から分離した獨立の工業とせねばならぬ。奉天政府に我々の模倣をさせないためまたイギリスおよびアメリカの資本家が我々を監視しえないために、この礦物の加工は日本で行はねばならぬ。東三省におけるこれらの埋藏物を獲得したならば、我々は鴨綠江の水力をその事業に利用しうるで

を輸入してゐる。我々は撫順炭礦の油母頁岩五十億噸から、五%の割合として最良油二億五千萬噸、もしもこの割合を九%に高めるとすれば四億五千萬噸をうることができる。平均三億五千萬噸はえられよう。噸あたり價格十五圓と計算するならば、撫順炭礦に埋藏されてゐる石油は二十二億五千萬圓に達する。これは我々に大産業革命をもたらすであらう。石油は國防、國富の見地からして重要な要因である。もし我々が滿洲の鐵および石油を掌握するならば、わが陸海軍は無敵となるであらう。滿蒙がわが帝國の生命線であることは疑のないところである。

(三) 農業用肥料、硫安およびその他の産物

食糧品の生産にとつては農業用肥料が必要である。化學肥料として必要な硫安は石炭から製出される。撫順炭はこれをとくに豊富に含有してゐる。現在我々は五十萬噸の硫安を消費する。この額の半分は開鑿炭と撫順炭を使つて日本で製造してゐる。他の半分は、年額三千五百萬圓を拂つて外國から輸入せざるをえない。わが國の農業は發展しつゝあり、また我々は滿蒙に新帝國を發展せよと欲してゐるが故に、我々は今後十年間に年額百萬噸の硫安を必要とするであらう。鐵の溶解にあつて燃焼される撫順炭からえられる副産物で、巨額の硫安をとることができる。もし年額三十萬噸を製造するならば、我々の一ヶ年の利益は四千萬圓以上に増加し、五十年間には總計二十億圓に上るであらう。この金額はわが國の農業を振興するために利用することができ、もし剩餘があれば、我々は農業用肥料を購入し、全支那洋陸島の農業經營に供給しうる。我々は、この事業を滿鐵から分離せねばならぬ。かくすれば我々は、全極東に供給される肥料を完全に支配しうる。

あらゆる。航空は不斷に發達しつゝあるから將來全世界が飛行機建造に必要な物資をわが國に求め来るであらう。もしもこれらすべての企業がそれぞれ獨立するならば、それらは急速に發展し、年額六百億圓を下らぬ利益をもたらすであらう。南滿洲の工業的發展は、わが國防および經濟的發展にとつて重要な意義をもつてゐる。それは、わが工業帝國の基礎をおくであらう。病院、學校等々の文化施設についていへば、それは滿蒙への我々の前進の標識である。それは、わが聲望と權威とを高めるであらう。北滿へ進出せんとする我々の力を倍化するために、これらもまた滿鐵から分離されねばならぬ。

これら巨大企業が獨立して、わが官憲の干渉から解放されるや、それはもちろん、國家繁榮の中心となるであらう。我々は、列強の疑惑を招くことなく、東三省の民衆の反日活動を引き起すことなく、急速に經濟的發展の道を前進しうるであらう。これらの周到なる方法によるならば、我々はわが新大陸帝國を建設しうるであらう。

滿鐵に與へられた外資は、すでに完成された鐵道にのみ利用せねばならぬ。我々が敷設して、しかも名義上は支那が監督してゐるその他の鐵道は、既設線と合同せしめられるか、もしくは投資國の希望に應じて獨立せられるであらう。我々は「機會均等」のスローガンによつて外資をえ、北滿における我々の企圖に對するあらゆる猜疑を一掃しうるであらう。ともかくも我々は、わが大皇帝國の發展のために外資を必要とする。外國列強は、滿鐵にその資本を投下する機會をあたへられれば喜んでます多くの金をわが國に供給するであらう。支那はそれに反對することはできない。これが滿洲におけるわが計畫を發展させる最善の策である。我々は一刻も猶豫してはならぬ。北滿および蒙古に集積されてゐる富源についても、同一の方針を探らねばなら

ぬ。我々は吉林一會軍閥、長春一大實閥の二つの新鐵道を、木材および鑛山企業と同じく、別個の企業とせねばならぬ。

北滿の開発は、滿鐵をいぢるしく富ませるであらう。我々は、滿鐵に資金を投資した外國の利益の分配をうけることを許さねばならぬ。利益をえさへすれば彼らは滿蒙における我々の活動を妨害しなくなるであらう。滿蒙にはすでに巨大な支那人大衆が移住してゐる。彼等の地位は日増しに深まるであらう。わが移民の地位は、國內に於ける借地權がまだ完全に保護されてゐないため、漸次悪化してゐる。わが政府の支持をもつてしても彼らは、生活水準の低い支那人と競争しない。我々の唯一の方法は巨額の資本投資によつて支那人を打負かすことにある。だがそのためには、我々は外資を必要とする。北滿の富源が南滿における我々の力と結び付けられるならば、問題は一撃に解あり、我々に食糧と原料品を供給しうるであらう。北滿と日本の利害は緊密に結びつけられてゐる。我々は即時北滿に侵入し、そこでわが國策を遂行せねばならぬ。

一〇、拓務省設置の必要

日本人の滿洲開發は幾多の形態をとるであらう。政權にいたる人物の意見がしばしば異なるので、もつとも有利な企業ですら失敗に終つてゐる。行動が遅れたる結果、我々の仕事はしばしば漏れ、奉天政府はこれをわが國に對する宣傳に利用する。何か新企業が滿蒙で計畫されると、問題は大連の幾多の會議で討論される上述の四人の首腦部以外に政府の承認が必要とされる。それ故何らかの結果に到達するまでに幾ヶ月も経過する。その間に支那人は日本の投資者を利用してわが秘密を探り出し、我々が計畫を完成しうる以前に、支那人および世界が

命令をうけるのみで、わが政策の遂行に専斷的に容喙することを許されてはならぬ。これによつて必要なる秘密が守られ、敵國はわが國の拓殖活動の秘密を發見しえなくなるであらう。國際輿論もまた滿蒙における我々の活動の跡を追求しえず、かくなれば我々は彼等の干渉をも恐れる必要はない。

滿鐵の企業、たとへば開發協會、土地協會、トラスト會社等についていへば、これら諸企業の統制も拓務省の手中になければならぬ。すべてそれは、帝國政府によつて遂行されてゐる滿蒙開發政策を援助し、かくして新帝國樹立を援助しうるために統一的な統制のもとにならねばならぬ。

一一、北寧沿線多倫河流域

多倫河流域は人口稀薄な廣大な地域である。同地方全體は馬賊の占領するところである。ここには多くの朝鮮人がとくに米作に資本を投じてゐる。この地方は繁榮地となる見込がある。その上この邊からは熱河地方に容易に行くことができる。我々はここに住む朝鮮人を充分に保護し、この地方を植民地化する權利を支那から獲得するためにあらゆる機會を利用せねばならぬ。わが移民は、當地に住み、熱河および蒙古への進出における前衛の役割をはたさねばならぬ。戰爭の場合同、この平原は、大軍の戰略的地點となるであらう。我々は支那人の北方進出を阻止しうるのみならず、南滿にある巨大な富源を支配するであらう。もしも朝鮮人がこの地方に入りこむならば、我々は、トラスト會社、金融機關を通じて彼らに財政的支持を與へねばならぬ。これらの組織は土地所有權を持たねばならぬ。朝鮮人は耕作權のみに局限されねばならぬ。だが形式上は朝鮮人にも土地所有權を持たすべき

それを知つてしまふ。全世界の輿論が我々に反對してくる。我々はかくして一度ならず滿蒙におけるわが政策遂行の際、多大の困難に逢着を改めねばならぬ。統制の中心は東京に移されねばならぬ。これによつて交渉と計畫との秘密が保たれ、支那が事前にわが計畫を知るのが防止され、わが計畫が實行される以前に計畫を通知する列強の疑惑的との關係においては非常に重要な、滿蒙にあるわが當事者と中央政府との間の強固な連絡が確立されるであらう。これらすべての理由からして、我々は桂、伊藤が苦心の末に作成した朝鮮併合當初の計畫を實行し、わが滿蒙開發の問題を管轄すべき拓務省を創設せねばならぬ。名義上それは朝鮮、臺灣、樺太の統治を爲すであらうが、實質においてはそれは日本の滿蒙開發を計らねばならぬ。これは全世界を欺き、全世界からわが秘密の隱微を容易ならしめる助けとなるであらう。私自身は、もしも伊藤が統治してゐた時、「朝鮮併合」が實行されなかつたとしても、それは特別な統制機關の欠如のためであると考へまつた點からして絶えざる意見の變化がおこり、わが秘密政策は道をはいられたのである。當時多數の宣傳者がヨーロッパ、アメリカ、朝鮮にかけ、我々が朝鮮の獨立を認め、その領土に對して何らの野心なきことを宣言した。その結果國際的信頼はふたたび恢復された。もしも臺灣を目的とするかの様に見せて拓務省を設けるならば、我々の機關が必要であることは、まつたく明瞭である。拓殖、移民の發展のために特殊の機關を建設すること、これは、日本の存立によつて巨大な意義をもつてゐる。この廣大な地域に對するわが政策を東京で統制し

であらう。かくして我々は支那政府からこれらの權利をうることができ、トラスト會社や金融機關は、土地をえんとする朝鮮人の努力を全幅的に支持せねばならぬ。もし彼らが土地を買ふ金を必要とするならば、金融機關は彼らを援助すべきである。かくして我々は、こつそりとわが移民、すなはち日本人が手に入れるべき最良の米作地に對して支配權を掌握しうる。つぎに日本人は、朝鮮人を驅逐せねばならぬ。そして朝鮮人はさらに新しい土地を探し求めるであらうが、この土地も將來にはわが國民のものとなるであらう。これが、米および大豆耕作地の植民地化に關するわが政策である。牧畜に關しては、開發協會は特別な權能を與へられて、多量の家畜をわが國に供給せねばならぬ。この協會は馬の飼育を行ひ、日本の國防の目的のために最良の蒙古馬を供給せねばならぬ。

一二、支那人移民に對する闘争

支那の内亂は、最近多數の支那人を驅つて滿蒙に移住せしめた。これがわが移民に大なる脅威をあたへてゐる。我々はここに適當な對策を講せねばならぬ。支那政府がこの移民を歡迎し、それに對して何らの方策もとらないといふ事實はわが國移民にとつて出々しき危險である。有名な支那通の一米人は、奉天政府の施政が勝れてゐるので、この地方への移民が廣汎に行はれてゐる、と言つた。移民の流入は、かくのごとく奉天政府の熱心な政策の現れであると考えられてゐる。これは、我々の利益を大いに阻害するものである。もし我々がこの移民を阻止しないならば、十年を経ぬうちに支那は我々自身の政策によつて我々を打倒するであらう。我々はわが警察力を支那人の流入の阻止のために政治的に利用しなければならぬ。これに應じ、わが金融資本家は實銀引下げによつて支那人を驅逐せねばならぬ。さらに我々は電

力の利用を發展させ、それを人間労働力におきかへなければならぬ。

一三、病院および學校

滿州の病院と學校とは、滿鐵に附屬してゐてはならぬ。けだし、それは、帝國主義の機關と見られて、利用されるおそれがあるからである。それらが滿鐵から獨立してをれば、世人は我々の好意とみて我々に感謝するであらう。我々は列國の日本に對する友誼的精神を養ふために、まづ第一に男女の師範學校を創らねばならない。この精神が、我々の文化的建設の第一原則である。

(をばり)

昭和二十一年五月二十五日初版印刷 昭和二十一年五月三十一日初版發行		定價 三圓(稅共)	
日本帝國主義の陰謀 (田中義一覺書)		東京都神田區西神田二ノ十七 齋藤新吾	
編輯兼 發行人	印刷人	東京都牛込區市谷加賀町一ノ十二 小坂孟	
配給元		東京都神田區淡路町二ノ九 日本出版配給株式會社	
發行所	東京都神田區西神田 二丁目十七番地	イスクラ社	會員證號△二〇九〇二號

大日本印刷株式會社(東京一)印刷